

先端部地区における課題と対策

1. 利用状況

先端部地区は国立公園計画上の「利用施設計画」がなく、一般の公園利用が想定されていない地域である。自己責任の原則の下、下記のような利用がされている。

海岸トレッキング利用

- ・ 知床岬や知床岳を目的地として、羅臼側相泊を起点とした海岸線のトレッキング利用がされている。(7～8月が利用のピーク)

沿岸カヤッキング利用

- ・ 知床岬や幌別周辺を目的地として、ウトロや相泊等を起点としたシーカヤックの利用がされている。(7～8月が利用のピーク 平成21年：1,000人/年 程度の利用)

山岳部登山利用

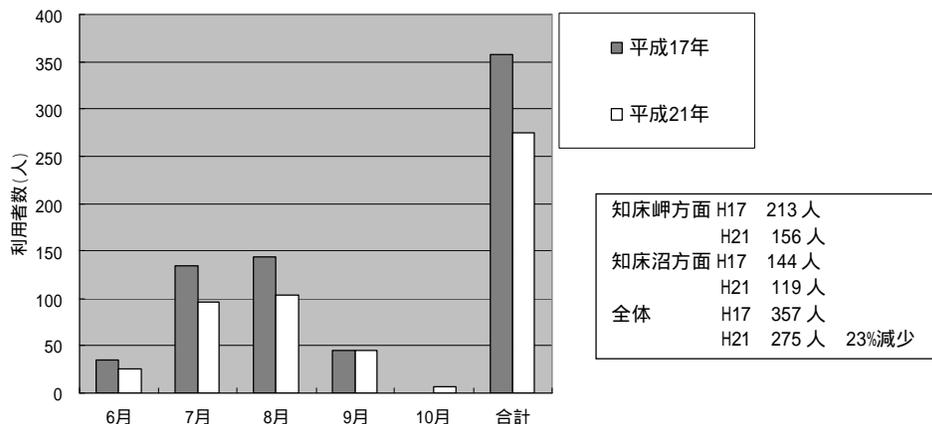
- ・ 海岸線側を起点としながら稜線部や沢部について、登山利用がされている。(7～8月が利用のピーク)

河口部のサケ・マス釣り利用

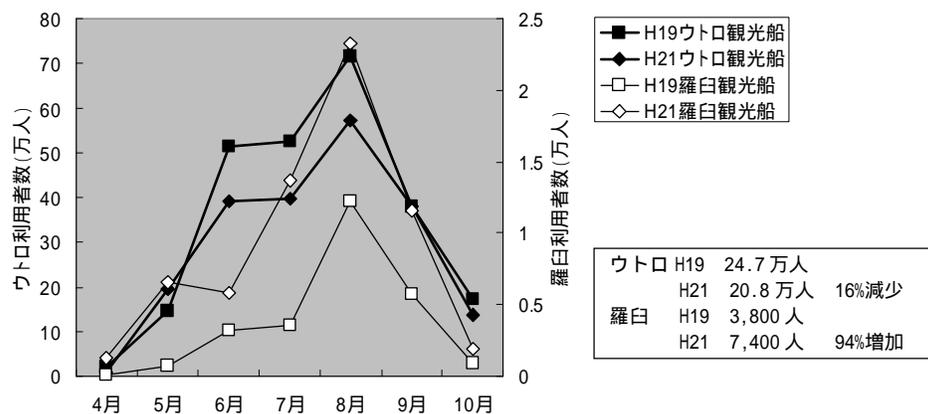
- ・ 羅臼側の海岸部において、遊漁船の渡船によるサケ・マス釣り利用がされている。(7月下旬～9月上旬 平成21年：年間1,200人/年程度の利用)

動力船による海域利用

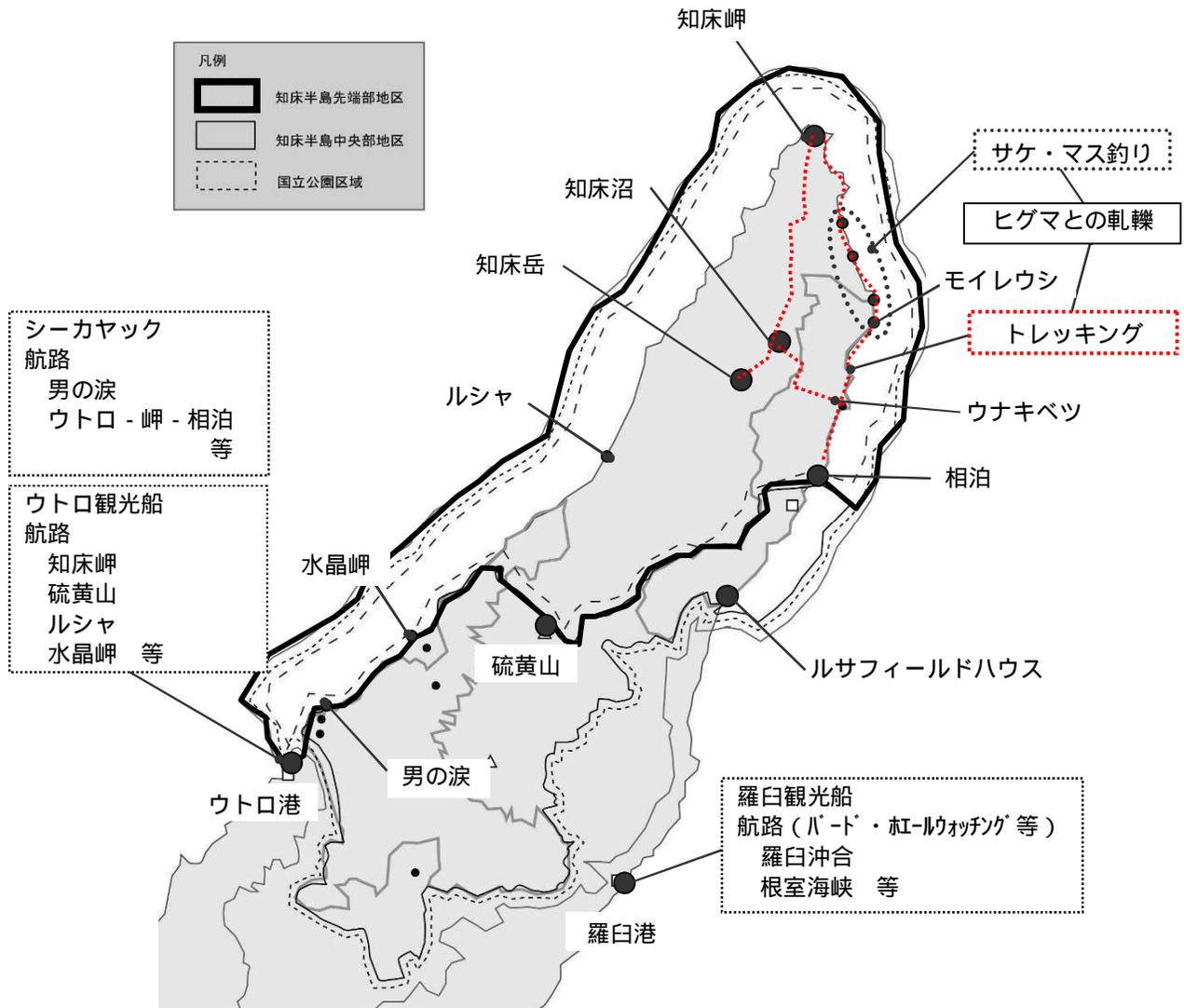
- ・ ウトロでは、知床岬方面を主な目的地とした観光船利用がされている。
- ・ 羅臼では、野生生物観察(海鳥、海生哺乳類等)を主な目的とした利用がされている。



図：知床岬、知床沼方面の徒歩利用者数(ウナキベツカウンターによる)



図：観光船月別利用者数(ウトロ・羅臼)



図：先端部地区の概況図

2. 課題

野生動物への影響

ヒグマとの軋轢

- ・ 知床岬トレッキング中のヒグマとのトラブル発生（平成21年夏：食料を荒らされる）
- ・ サケ・マス釣りによるマスの死骸大量放置（ヒグマの誘引要素）

海鳥・海棲哺乳類への影響

- ・ ウトロ海域でのケイマフリの減少
- ・ 野生動物への無秩序な餌やりや観察等による悪影響が懸念

利用ルールの遵守

- ・ 知床岬への動力船による渡船の発生
- ・ 適切な情報提供や普及啓発
- ・ 知床沼の植生荒廃

3. 対策

課題 野生動物への影響

ヒグマとの軋轢

（平成21年9月から立入りの自粛を要請、平成22年4月に解除）

- 対策1：利用の心得の修正（食料残置の禁止）
- 対策2：フードコンテナ貸出対応の充実
- 対策3：普及啓発パンフレット等の作成

海鳥・海棲哺乳類への影響

- ・ ウトロ海域でのケイマフリの減少
- 対策：ウトロ海域懇談会の立ち上げ（資料 2-8 参照）

課題 利用ルールの遵守

- 対策 1：利用の心得等の修正・補完および効果的な普及啓発の検討
- 対策 2：利用調整の検討

4. 参考資料

計画	取り扱い方針
知床国立公園先端部地区利用適正化基本計画（平成 16 年）	<p>基本方針</p> <p>陸域への動力船の上陸利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認めない。 人力による陸域利用 ・具体的な「利用ルール」を設けて、普及啓発に努める。 <p>海域の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な「利用ルール」を設けて、普及啓発に努める。 <p>利用の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の情報提供やレクチャーの仕組み構築により「自己責任」の普及啓発に努める。 <p>原生的自然の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡視等の指導體制の充実。普及啓発の促進。 <p>ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用ルール」普及啓発のための地元等とのネットワーク構築 <p>「利用のルール」とは利用の調整と利用の心得をさす。</p>
知床国立公園先端部地区利用の心得（平成 20 年）	<p>共通事項</p> <ul style="list-style-type: none"> リスクの軽減に関する事項 自然環境の保全に関する事項 その他の事項 <p>特定利用形態別事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 海岸トレッキング利用に関する事項 山岳部利用に関する事項 沿岸カヤッキングに関する事項 沿岸河口部サケ・マス釣り利用に関する事項 <p>（羅臼遊漁船組合の自主ルールに基づく運用）</p> <ul style="list-style-type: none"> 動力船による海域利用に関する事項